

## 愛知県碧南市の汽水域および海域におけるミシシippアカミミガメの発見例

楠田哲士・杉浦鉄太

501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1 岐阜大学応用生物科学部動物繁殖学研究室

Red-eared sliders (*Trachemys scripta elegans*) found in marine and brackish-water areas in Hekinan City, Aichi.

By Satoshi KUSUDA and Tetta SUGIURA

Laboratory of Animal Reproduction, Faculty of Applied Biological Sciences, Gifu University, 1-1 Yanagido, Gifu 501-1193, Japan.

愛知県碧南市の新川(汽水域)および三河湾の奥に位置する衣浦湾(海域)でミシシippアカミミガメ(*Trachemys scripta elegans*)を発見したので報告する。それぞれの発見場所を図1に示した。

### 発見例A(新川)

2015年5月6日11時頃、新川の左岸において、消波ブロック上で甲羅干しをしていたミシシippアカミミガメ3匹(図2)を目視確認した(発見者:杉浦)。この発見地(図1のA1地点)は河口からおよそ2km上流の新川水門の上流側であった。3匹の他に水面を泳ぐ1匹も確認した。いずれも水門横の橋上からの目視のみであったため、性別は不明であるが、カメのサイズはブロックサイズとの比較から、いずれも背甲長20cm前後と思われる。

同年10月31日に再度確認に行ったところ、15時半頃、ミシシippアカミミガメ1匹(図3)を新川水門の下流側(図1のA2地点)で発見した(発見者:楠田)。道路上からの目視確認のみであったため正確な背甲長は不明だが、20cm前後と

思われた。また、前肢の爪の長さや頭部および前肢の明瞭な模様から、性別は雌の可能性が高いと考えられる。

発見場所の新川は、油ヶ淵(天然湖沼)と衣浦湾をつなぐ全長2.4kmの二級河川である。油ヶ淵には長田川と半場川などが流入し、高浜川と新川で衣浦湾へとつながっている。油ヶ淵は、周辺地盤が海拔0mであるため、新川などから海水が流入する汽水域となっており、汽水生と淡水生の魚種が確認されている(碧南市, 2013)。したがって、新川全体には海水が流入し、常に汽水域または海水域になっているものと思われる。



図1. 愛知県碧南市の汽水域および海域におけるミシシippアカミミガメの発見場所 (国土地理院のWeb地理院地図に加筆。太線内が碧南市内。)



図2. 愛知県碧南市の新川水門の上流側の消波ブロック上で甲羅干しをしていたミシシippアカミガメ(2015年5月6日11時4分撮影)



図3. 愛知県碧南市の新川水門の下流側で発見したミシシippアカミガメ(2015年10月31日15時27分撮影) 2枚の写真は同一個体

#### 発見例B(衣浦湾)

2015年5月6日13時頃、衣浦湾の海面を泳ぐミシシippアカミガメの幼体を、近くの釣り客数人と共に発見した(発見者:杉浦, 写真なし)。陸上からの目視確認のため正確なサイズは不明であったが、背甲長5~10cm程度と思われる。この発見地Bは、愛知県碧南市の碧南釣り公園前の岸壁付近で、近くの蜷川(二級河川)の河口からおよそ600mの海側であった(図1のB地点)。

今回の発見場所周辺の汽水域では、ミシシippアカミガメの生息が以前から知られていたもの(碧南市, 2013)、全国的に汽水域および海域での発見例についての文献報告はほとんど見当たらない。一方、砂浜海岸での発見例はいくつかの報告があり、またWeb上の個人記事としても散見される。兵庫県豊岡市および京都府京丹後市の砂浜海岸における漂着生物調査では、2004年10~11月に、ニホンイシガメ(*Mauremys japonica*)、クサガメ(*Mauremys reevesii*)、ミシシippアカミガメの3種計13匹が発見されている(竹田, 2005)。また、静岡県浜松市の砂浜海岸では、2011年9月に海から上陸してきたミシシippアカミガメの目撃例が報告されている(山本・亀崎, 2011)。いずれの例も数日前に台風が到来していたことから、増水により近くの河川から流され、その後漂着したものと推測されている。

事例Aでは、新川および油ヶ淵の上流に位置する長田川または半場川、また事例Bでは蜷川もしくは同じ水系でミシシippアカミガメが確認されている隣接の矢作川(矢部他, 2010)から、それぞれ降雨による

増水で流されてきた可能性や、遺棄の可能性も考えられるが、由来は不明である。発見日前の愛知県西部地方の天候を表1に示した。2015年5月6日の発見例A1では前々日に降雨があったが、10月31日の発見例A2では雨天日は1ヶ月前であった。

油ヶ淵および流入河川における平成5年度から25年度までの5年ごとの調査では、10、15、20、25年度においてミシシippアカミガメが確認され、定着の可能性が指摘されている(碧南市, 2013)。また、発見地A2の個体(図3)では、背甲の頭側に凸部が認められ、写真のみのため同定できなかったが、フジツボ類もしくは貝類が固着している可能性が考えられた。これらのことから、ミシシippアカミガメは汽水域では長期に生存可能であり、海水中でも少なくとも数日程度は生きられるものと考えられた。

海域を通して隣接する河川等へ分布を広げられる可能性もあることから、今後、汽水域における個体の繁殖状況についても調査が必要である。

表1. ミシシippアカミガメの発見日(2015年5月6日と10月31日)までの愛知県西部地方(名古屋)の天候

5月	1日	2日	3日	4日	5日	6日
天気	晴	晴	曇	雨	晴	曇
最高気温(°C)	27	29	26	20	26	25
最低気温(°C)	15	16	17	17	15	14

※ 5月1日以前の雨天日は4月20日

10月	26日	27日	28日	29日	30日	31日
天気	晴	曇	晴	晴	晴	晴
最高気温(°C)	21	24	23	21	20	18
最低気温(°C)	8	12	17	13	12	10

※ 10月26日以前の雨天日は10月1日

#### 引用文献

- 碧南市. 2013. 油ヶ淵水生生物調査結果(平成25年度調査結果). URL : <http://www.city.hekinan.aichi.jp/KANKYOKA/kankyohozen-kakari/08.kankyojyokyo/kankyojyokyo.htm>
- 竹田正義. 2005. 丹後半島周辺において確認されたヌマガメ類の漂着例. 兵庫陸生生物 56・57:231-235.
- 矢部 隆・野呂達哉・間野隆裕. 2010. 矢作川河畔林の両生類と爬虫類. 矢作川研究 14:35-38.
- 山本明男・亀崎直樹. 2011. 海から上がってきたミシシippアカミガメ. 亀楽 2:7.